

県がアンケート

インターネット上で実施。220人(男性148人、女性72人)が回答した。
本人または身近な人がDV被害を受けたことがあるか聞いたところ、53人(24.1%)が「ある」と回答。本人が被害者だったのは19.5%に上った。

一方、恋人間の「デートDV」についても質問。言葉と内容を知っている人が6割を超えた一方、「言葉も内容も知らない」が21.8%、「言葉は知っているが内容は知らない」も15.5%に上った。

恋人間

県は今回のアンケート結果を、来年度策定する次期「DV防止・被害者支援基本計画」に反映させる。一方、25日まで実施する「女性に対する暴力をなくす運動」で街頭キャンペーンなどを展開している。

南

「クアラランブル共同」鈴木洋志(安倍晋三首相は21日午後(日本時間同)、インドのモディ首相とマレーシアのクアラランブル



インドのモディ首相(左)首相=21日、クアララン

少量投与で地域差

抗認知症薬の全国診療報酬調査

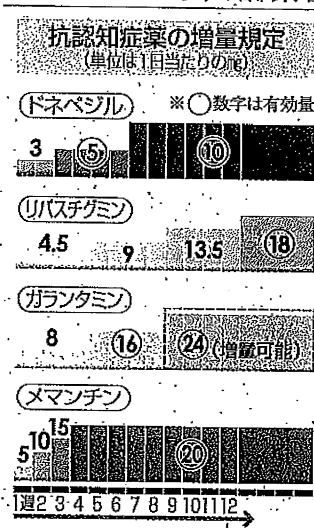
千葉など9県は認めず

認知症の進行を遅らせる。地域差があった。

(関連記事19面)

抗認知症薬を規定の有効量を下回って少量投与した場合、過去3年間で全国の国民健康保険団体連合会(国保連)のうち千葉など9県が医療機関からの診療報酬支払い請求を認めない査定をしたことが、共同通信の調査で21日、分かった。26都県では、認めない査定はなかったとし、12県が少量投与を認めるべきだとするなど、抗認知症薬の扱いに

抗認知症薬の増量規定(単位は1日当たり1錠)
※○数字は有効量



知症医療の充実に、公平で明確な審査が課題となる。厚生労働省は「少量投与も医学的に妥当だと判断すれば認められるはず。審査の差異は解消しよう」と努めている」としている。

抗認知症薬は飲み薬のドネペジルなど4種類が承認されている。いずれも少量で始め、約1.7〜4倍の有効量まで増量するよう添付文書で規定されている。高齢者医療に携わる医師らでつくる「抗認知症薬の適量処方を実現する会」(代表・長尾和宏医師)によると、増量で興奮や歩行障害

担になる恐れから医師が少量投与を控え、認知症医療の大きな障害となっている。75歳以上の後期高齢者や自営業者を対象にする各都道府県の国保連の審査担当者に査定の有無を問い合わせたところ、過去3年間で千葉、愛知、兵庫など9県は認めない査定を理由に「(添付文書の)用法

用量に従って(岐阜、静岡)、有効用量ではない(鳥根)などだった。一方、「医学的判断で少量投与もあり得る」(三重)、「患者に押し認められるべきだ(広島、徳島)」とする地域もある。見解が分かれた。主に被雇用者が対象の社会保険診療報酬支払基金は今年7月の診療分で、北海道、栃木、埼玉、熊本で各1件、神奈川県で7件の査定

襲撃情報、8月入手 仏当局、端緒生かせず

パリ同時テロ

【パリ共同】パリ同時多発テロでフランス当局が今年8月、劇場襲撃計画に関する情報を入手していたことが分かった。当局に拘束された男が、主犯格のアブデルハミド・アバウド容疑者「死亡」から「最大の犠牲者を出すため、コンサート劇場を襲撃せよ」と指示されたこと供述していた。リベラシオン紙が21日までに報じた。結果的に端緒は生かされず、国内外の情報機関の網をかくくりながら

大規模テロは実行された。フランスでは情報機関の対応に批判が強まっており、情報機関の強化に向けて体制見直しを迫られよう(関連記事3、18、19面) 国連安全保障理事会は20日、同時テロの犯行声明を出した過激派組織「イスラーム国」を非難、「あらゆる手段で戦う決意」を表明する決議を全会一致で採択し



秋の里山、芸術に染まる
市原市の「中房絵画祭芸術祭いちばらアート×ミックス」関連イベント「アートいちばら2015秋〜晴れたら市原、行こう〜」が南部の廃校などで開幕。過疎地域が活気を取り戻した。

きょうの紙面
12 ランク 13

サケ遡上「お帰りなさい」
サケが自然遡上する南限とされている横芝光町の栗山川で、約30人が捕獲や人工授精を見学した。今年は今までは300匹の遡上を確認されているという。

心を癒やす8000個の灯笼
市民とコラボした企画展
テロ警備強化具体策なく
スポーツ
関東駅伝、男子流経柏V
ヘルスサポート 6 読者文芸 10

リベラシオン紙に「意図を示した。モディ一訓練に日本も入り、的に行いたい」と語り、安倍首相は12月にイを訪問する意向を正式に明。訪問時には、経済協投資促進などについて話したいとの考えを示した。

ロバートは「タクイバー」年だった。ヨークの下層で、転手の異常な性格が、心に深い傷を残す。売春婦のジョディが、ストーカー被害日談も世を震撼させた。さんだ人間関係を多と名画で、デニは映画史に刻印を打つ。銀髪の見習い。公私ともに世が、洋服ネット販売アン・ハサウェイ。は40歳の年の差があ

「怖く」 パリ



テロ現場近くの共和国広
者を追悼する女性たち
リ(共同)

医療現場の模索続く

投与めぐり対応まばら

抗認知症薬

団塊の世代が75歳以上となる2025年には認知症の人が700万人に達すると推計されるなど、認知症の適切な医療やケアは現代日本が直面する大きな課題だ。医療の中心である抗認知症薬の投与をめぐる模索が、地域でばらばらな実態が明らかになり、あるべき医療に向けた模索が続く。

薬の投与量は製薬企業の臨床試験データに基づき、厚生労働省が承認している。有効量を下回れば治療が無駄になりかねず、「適応外使用」として保険診療で認めないのは一定の合理性がある。

しかし、高齢者の多い認知症は患者の個人差が大きい。「薬が効きすぎて興奮や暴行、歩行障害、飲み込み障害といった、介護の負担にもなる副作用が頻発しているのは専門家なら誰でも知っている」と複数の医師が指摘する。微妙な量を加減を必要とする脳神経に作用する薬でもあり、医師の裁量で少量投与も認めて

が、ほしいとの要望が医師や介護関係者から上がっている。各都道府県の国民健康保険団体連合会(国保連)への取材では「認めている」「(奈良)」「医師の裁量による」「(熊本)と容認を明確にしている地域がある一方、「客観的に有効性が示されなかった」「(愛知)」「薬効はないと判断している。あるなら添付文書を見直すべきだ」「(長野)と回答した地域もあった。また、「最低用量以下な

ら中止した方がいいとの考えもある」「(福島)」「用量より低い場合は認めない」「(山口)とする地域もあった。関東の国保連の審査担当者は「基本的には査定しないが、1人の審査委員だけ査定している」と困惑げに話す。「査定されたという情報はあつたという間に広がると、保険者から査定要請が増える」と、関西の審査委員は指摘する。

旧厚生省は1980年に「昭和」55年通知を出して適応外使用に道を開いたが、抗認知症薬の少量投与については統一見解を示していない。ある審査委員は「厚労省が十分調査して賢い決定をすれば解決することだ」と話している。

約90人が犠牲になった目には涙を浮かべた。約90人が犠牲になった

次々と訪れ、21日未明まで犠牲者を悼んだ。涙ぐむ女性。立ち尽くすお年寄り。平和を祈る親子。容易に癒えない不安と、新たなテロへの恐怖を抱えつつ、街は再び歩きたそととしていた。

笑顔がめっきり減り、

のまじったカンボジア料理店を訪れた。「あの(テロの)時間、ここに来る予定だったが、子どもが病気になる来なかった。もし来ていたら犠牲になっていた」と振り返り、

「昭和」55年通知を出して適応外使用に道を開いたが、抗認知症薬の少量投与については統一見解を示していない。ある審査委員は「厚労省が十分調査して賢い決定をすれば解決することだ」と話している。

「昭和」55年通知を出して適応外使用に道を開いたが、抗認知症薬の少量投与については統一見解を示していない。ある審査委員は「厚労省が十分調査して賢い決定をすれば解決することだ」と話している。

「昭和」55年通知を出して適応外使用に道を開いたが、抗認知症薬の少量投与については統一見解を示していない。ある審査委員は「厚労省が十分調査して賢い決定をすれば解決することだ」と話している。

「昭和」55年通知を出して適応外使用に道を開いたが、抗認知症薬の少量投与については統一見解を示していない。ある審査委員は「厚労省が十分調査して賢い決定をすれば解決することだ」と話している。

重機横転、道路ふさぐ

くい打ち現場、人が人なし

21日午前9時50分ごろ、東京都練馬区大泉町4の東

京外環自動車道の大泉ジャンクション付近で、くい打ち

工事をしていた大型重機が

横倒しになり、道路をふさい

だ。近くを走行していた乗用

車の一部が破損したが、けが人はなかった。警

視江石神井署などが転倒し

た原因を調べている。

東日本高速道路による

と、長さ約30メートルの

分が道路を横断する形で倒

れ込み、道路脇の工事用フ

ェンスを押しつぶした。衝

撃で飛散した部品の破片が

乗用車に当たり、重機から

は油が漏れたという。

現場付近から和光インタ

ーチェンジまでの間の内回

りが通行止めになり、渋滞

が発生した。

くい打ち工事は外環自動車道の延伸工事の一環で実施していた。



47club
www.47club.jp



カピバラ「いい湯だな」

静岡県伊東市の伊豆シャボテン公園で21日、冬の風物詩「カピバラの露天風呂」が始まった。気持ちよさそうに湯に漬かるカピバラ一家の姿が来園者の心を和ませた。

露天風呂に39度の湯が注がれると、5匹のカピバラが次々と入浴。4月に生まれた3匹の子どもは露天風呂初体験で、興味津々の

りして楽しんだ。神戸市の会社員、山田めぐみさん(28)は「気持ちよさそうで見ることができた」と目を細めた。

カピバラは体重50キロにもなる世界最大級のネズミの一種。1982年、飼育スタッフが湯を使って展示場を掃除中、カピバラが湯に漬かる姿を見つけて露天風呂が始まった。今季は来



静岡県伊東市の伊豆シャボテン公園で始まった冬の風物詩「カピバラの

ている福原市の「アンイチユ・フランセ九州も、たかさんの花が手られ、広報の熊塚絹子は「今回のテロの現場中で、若い人も集まるだからとてもショック。たちにとっても遠い国のはない」と静かに語っ